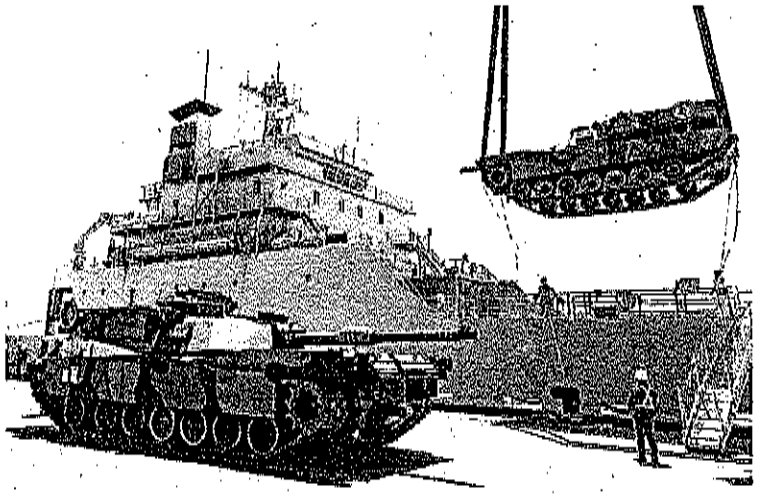
日米演習に豪が初参加

対中国の多領域作戦

日本で実施される日米合同演習にオーストラリア陸軍が初めて正式に参加します。オーストラリアは、中国が設定した第1、第2列島線の南側に位置する米国の主要な同盟国。対中国封じ込めの日米豪一体の軍事作戦体制づくりが狙われています。

（佐藤つよし）



スーパー・ガルーダ・シールド23で米陸軍兵たん支援船から陸揚げされる豪陸軍M1A1戦車＝9月4日、インドネシア・タンジュン・ペラック港（米国防総省映像情報配信サービスDVIDS）

豪陸軍が参加するのは、11月30日～12月13日の米陸軍と陸上自衛隊を中心とした合同指揮所演習「ヤマサクラ85」（YS85）と来年2月1～8日の日米合同統合指揮所演習「キーン・エッジ24」（KE24）です。

米大統領と合意

10月25日に行われたアルバニージー豪首相とバイデン米大統領との会談では、「日本との3国間防衛協力の強化」として、YS85と、KE24への豪軍の初参加を明示しました。

豪国防省の発表では、YS85には豪陸軍第1師団約280人、米陸軍約1500人、陸上自衛隊4500人が参加を予定。昨年の演習終了時に「日本との特別な戦略協力関係の強化と米国との国防同盟の強化」を目的に今年の演習に招へいされたことを明らかにしました。豪陸軍は、2011年12月のYS61からオブザーバー参加してきましたが、正式参加となりました。

豪陸軍は、8～9月にインドネシアで行われた多国間演習に、米陸軍の兵たん支援船を使って戦車部隊を派遣。米陸軍も、YS85に参加する空挺（くうてい）師団が参加しました。

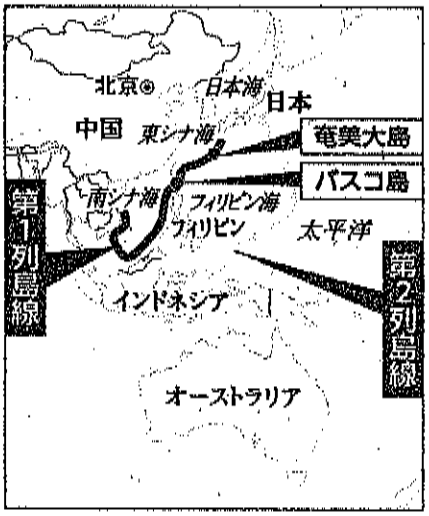
同演習には陸自の陸上総隊、水陸機動団、第1空挺団も参加。横田基地（東京都）、厚木基地（神奈川県）を米英インドネシア軍の部隊とともに米空軍輸送機で出発し、空挺降下、揚陸作戦訓練などを実施しました。

体制づくり進め

YS85の最大の目的は米陸軍のマルチ・ドメイン（多領域）作戦と、その自衛隊版であるクロス・ドメイン（領域横断）作戦の日米の連携強化です。

米陸軍の多領域作戦は、陸海空の通常戦闘と宇宙・サイバー・電磁波・情報空間など新たな領域の軍事作戦を一体的・同時的に実施する作戦です。YS85には、昨年9月にハワイで発足した第3多領域任務部隊が初参加します。多領域任務部隊は宇宙・サイバー戦などを担う部隊や、射程2776㌔の長距離極超音速ミサイル、中・短距離ミサイル部隊を指揮する敵基地攻撃部隊です。

すでに17年12月以降、米ワシントン州の第1多領域任務部隊が日米演習などに参加。北京から1754㌔の鹿児島・奄美大島や、2241㌔のフィリピン・パスコ島に高機動ロケット砲システム（ハイマース）を展開するなど、同盟国を動員した体制づくりを進めようとしています。



第1、第2列島線と各国の位置関係

軍拡競争激化 衝突の危険も

日本平和委員会 内藤功代表理事の話 米日豪合同演習の深化は、中国との軍拡競争を激化させ、衝突の危険をはらむものです。一方、11月6日の中豪首脳会談では、豪州のアルバニージー首相が習近平主席と貿易関係の修復を話し合っています。11月15日の米中首脳会談では、軍同士の対話の再開を合意しています。世界は平和の方向へ大きく動いています。

第1列島線と豪州との間に広がる東南アジア諸国連合（ASEAN）は、インド太平洋を対話と協力の地域とすべく努力を重ねています。憲法9条をもつ日本こそ平和外交へ積極的役割を果たすべきです。